

#編集後記 「渡る世間は…」

表紙でも触れましたが、2月といえば節分の季節。

我が家もまだ子どもたちが小さい頃は必ず豆まきをしていました。

幼い頃は僕が鬼になってみんなから豆を投げられていたのですが、長男が小学校の高学年位になると投げる豆も強く痛くなりました。(>_<)そこで、毎年僕ばかりが一方向的に豆を投げつけられ痛い思いをするのはイヤだと思い、翌年からじゃんけんて鬼を決めることを提案しました。

でもそれからは、我が家で豆まきが少しずつ廃れていったように思います。

もしかすると父親に堂々と豆を投げつけられるという理由で、家族は豆まきを楽しんでいたのかもしれませんが…。(*_*)どっちが鬼なんだかね…



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



「渡る世間は鬼ばかり」というドラマがありましたよね。実は僕は見たことがないのですが、ホームドラマのはずなのに、なぜか尖ったタイトルです。ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、ネットで調べてみたところ、プロデューサーの石井ふく子さんのコメントを見つけました。

『渡る世間は(に)鬼はなし』という諺をもじって『渡る世間は鬼ばかり』。相手のことを鬼だと思っただけで、自分が鬼でなかったら相手のことも鬼だと思わない、という意味を込めたんですよ。」



たしかに、被害者だったはずなのに、あるいは正義をうたっていたはずなのに、相手を追い詰めている姿が時として「鬼」のように感じられることがあります。それにあの瀬戸内寂聴さんもこんなことを言ってます。

「人に憎しみを持たないようにすると、必ず綺麗になりますよ。」できれば、そうありがたいものですね。^^

昨年9月末に緊急事態宣言が解除されてから約3カ月、ここきて感染力のすさまじい変異ウイルス「オミクロン株」の登場で新型コロナの感染者が爆発的に増加しています。僕の身近なところでも、コロナに感染したという話を耳にします。

今月中頃、バイデン米政権のファウチ首席医療顧問は「最終的にはほぼ全人類がオミクロン型に感染する」とコメントしました。いわば、渡る世間は「コロナ」ばかり…の時世。今までコロナ感染者がいなかった皆さんの職場でも、遅かれ早かれ感染者が出てくると割り切った方がいいかもしれません。

そしてもし感染者がでたときには、犯人捜しや犯人扱いのようなことのないように、どうか寛容になってください。人の心にある不安を呼び起こし、「疑心暗鬼」という鬼を生むだけです。

やるべきことは鬼の連鎖ではなく、職場でのクラスターを防ぐこと。マスク、手洗い、換気等の基本的な感染対策に加え、少しでも体調が悪い従業員さんには休み(有給休暇)を促すこととなります。

そんな急な休みになることを見越して、この機会に日々の報連相を職場で見直してはいかがでしょうか。

新型コロナで混乱している今は、本来進めたいけどなかなかできないことを断行するチャンス。

報連相の目的は情報を共有し、仕事の目的を共有し、思いを共有することにあります。

転職サイト「エン転職」がコロナ禍で調査した「職場のコミュニケーション」のアンケートでは、コミュニケーションがあると「働きやすさ」、ないと「ストレス」に影響するという結果がでています。

<https://employment.en-japan.com/enquete/report-78/?PK=E75C9C>

先が見えない時代だからこそ、乗り越える為には、心の結束いわば「人と人の鎖」がチームには大事ですからね。

子どもたちが独立すると、節分の日も恵方巻をいただくぐらいで豆まきをすることがなくなりました。

今となっては、鬼になって豆をぶつけられていたことを懐かしく思います。

若いお父さん方、僕を反面教師にして、節分の日くらい「鬼」のお面をつけて、

広ーい気持ちで、いっぱい豆を投げつけられてください。σ(^_^)

それと中高齢の皆さん、節分の豆の食べ過ぎにはどうか気をつけて。

